入学式　式辞「河井道とともに」　2023 年 4 月 3 日

恵泉女学園大学　学長　大日向雅美

学長の大日向でございます。
これから述べさせていただく式辞は、恵泉女学園大学 35 年の歴史の中で、最後の入学式式辞となります。

これまで私は毎年、“ご入学おめでとうございます”という言葉で式辞を始めてまいりましたが、本日はお祝いの言葉の前に、まず感謝をお伝えしたいと思います。
新入生の皆様には恵泉女学園大学への入学をお決めになられましたことに、
ご家族保証人の皆様には大切なお嬢様を本学にお預けくださいましたことに、
心から感謝申し上げます。
すでに大学説明会等でご説明を差し上げてまいりましたように、先月の理事会にて、やがて数年後に閉学することを前提として本年度以降の募集停止が決議されました。その決議を大学として苦渋の内に受け入れたところでございますが、本日、この入学式を執り行うことができ、新入生の皆様、ご家族保証人の皆様をお迎えして、希望をもって立ちあがる機会をいただいておりますことは本当に有難いことでございます。

恵泉女学園大学は、1929 年に学園を創立された河井道先生の精神を基本に、「聖書」「国際」「園芸」の学びを礎として、世界平和の構築に尽くす自立した女性となるための知識・教養を磨く女子教育の最高学府としての教育に努めてまいりました。

皆様と共に、新たな道に向かって一歩を踏み出す今日、河井先生の女子教育にかけた願いと祈りを共有させていただきたいと願い、式辞タイトルを「河井道と共に」とさせていただきました。

河井先生は多くの言葉を生徒・学生たちに贈られましたが、その中から 2 つを皆様にお伝えいたします。

まず、ひとつは「まっすぐな狭い道を歩くこと、人々が踏みならした道を行くことに満足せずに、自分自身開拓者となって道を明るく照らしていく者におなりなさい。マイランターンで」。

河井先生は「開拓者たれ」といわれました。なぜ、なにを目指して女性が開拓者となることを願われたのでしょうか？
先生が学園創立を目指された当時は、第一次世界大戦後、世界恐慌がひたひたと押し寄せるただ中でした。この地球上に真に平和な社会が築かれなくてはならない、そのためには世界に心を開いた自立した女性の育成が必要と考えられたのです。イエスとノーをはっきり自分の言葉として言う大切さも常々、指摘されました。歴史の裏側に置かれ、その時々の波にもまれざるを得ない人生を余儀なくされてきた女性だからこそ、主流に身を置かない客観性と公正な目を持つことができる。それを言葉にして訴え、一歩踏み出す勇気が時代を変える、それを「開拓者たれ」というメッセージにこめられたのです。

先生が目指されたものは、90 年余りの時を経て、今、改めてその意義の大きいことを思います。
未曽有のコロナ禍に閉ざされる苦しみ、今なお理不尽な戦争・紛争によって世界各地で多くの命が奪われていることへの怒り。人が人として生きることができる日常の暮らしの尊さと平和は、日々を大切に紡いできた女性たちがまず受け継ぎ、守るべき課題と考えます。

近年、日本社会はようやく女性活躍の必要性を認めるようになっています。
しかし、現状は道半ば、というより日本社会で女性が置かれている社会的地位は最低水準に近いことは、毎年発表される世界経済フォーラムの統計等でも明らかです。
そうであればこそ、先生の志を継承し続けなくてはならないと私は思います。

「女性活躍」の他に「個性と多様性の尊重」「自己肯定の大切さ」等、美しい言葉がたくさん掲げられていますが、それと逆行するかのような状況が強まっています。個性を無視し、人より早く、優れていることを偏重する教育が幼少期から行われ、その勢いに拍車がかかっていることは否めません。偏差値偏重の中で心を病み、互いにいたわりあ

う心を失い、自己肯定感を持てずに苦しむ若者をたくさん産み出しています。女性活躍と言いながら、女性が自分の力を社会に発揮しつつ、同時に家庭や身近な方を愛そうとするとき、その道の前にも依然として大きな壁がたちはだかっています。

こうして山積している課題をどう乗り越えたら良いのでしょうか。
河井先生のもう一つの言葉をお伝えいたします。“汝の光を輝かせ”です。
このお言葉を私たちはとても大切にしております。
先生は女性が活躍することを願われました。しかし、あなた一人が輝きなさいと言われたのではありません。私たちのだれもがかけがえのない存在価値をもっています。共に生きる方々がそれぞれに輝けるよう、その光の源になることを願われた言葉です。

これこそ、今、そして、これらからの時代に求められる本当の女性活躍の姿であると私は信じております。
今、私たちが切実に必要としているのは、誰一人として取り残さない・取り残されない平和な「共生社会」です。これまでのように他者を押しのけて勝つことだけに価値を置いた競争的リーダーのもとでは、私たちがつつましくも謙虚に人間らしく生きる幸せは保障されないことは明らかです。

他者を尊重して共に生きる社会を築き、それを可能とする分かち合いのリーダーとして皆様が活躍してくださることを願って、本学は「生涯就業力」の育成に全学あげて取り組んでおります。
「生涯就業力」とは、まず自分を大切にすること。自分の大切さを本当に知った人こそが、他者のかけがけのなさを尊重できる。そうして身近な方と共に、地域に尽くし、世界の平和に生涯、貢献する努力を続ける人となる力です。「生涯就業力」こそが、今、そして、これからの時代・社会に求められているのです。

小規模大学の特性を最大限生かし、一人ひとりと丁寧に向き合いながら、自分の大切さに気づき、他者を心から尊重できる力を育む本学の教育に対して、「きわめて良質な教育をテーラードメイドで施している、日本の高等教育においても稀有な存在だ」と惜しむ声が今、全国各地から寄せられています。

在学生、新入生のご家族保証人の方々からも、お言葉をいただいております。
「恵泉の教育にあこがれて入学し、娘は今、本当に心豊かに充実した学生生活を送っています。どうか最後まで恵泉の教育を守ってください」
「娘は運が良かったと思います。昨年、この決断がなされていたら、恵泉にご縁をいただくことはありませんでした。4 年間お世話になり、恵泉女学園大学の最後の卒業生ということに将来、誇りをもって人生を歩めるよう、切に願ってやみません」

こうしたお声に心から感謝いたします。私たちには今、河井先生の精神を、そして、それを継承発展した本学の教育を託せる学生を与えていただいていることに、何よりの勇気をいただいております。

新入生の皆様は恵泉女学園大学最後の入学者です。皆様に後輩はいませんが、35 年の歴史を紡いでくれた先輩がたくさんいます。上級生が皆様と共にいます。

この度のことを知った在学生たちから、次のような声が届けられたとのことです。
“こんなこと経験できることではない。だからこそ残された時間で精いっぱいできることをしたい。恵泉を盛り上げたい。1 年生には後輩ができなくなるから、その分、私たちがいっぱい愛情を注ぎます！！“
在学生たちは思いがけない事態に遭遇しても、だれを責めることなく、自分ができることを真摯にみつめよう、そして他者のために力を尽くそうとしてくれています。まさにこの多摩キャンパスは「生涯就業力」を磨いてくれている学生たちを与えていただいております。この後、上級生二人から皆様へのメッセージが「歓迎のことば」として贈られますので、お聞きください。

これからの皆様の学生生活を教職員一同、最善を尽くしてお守りいたします。皆様がご卒業の時に、心からおめでとうございますと申し上げられるよう、私は学長として最後まで責任をもって尽くさせていただきますことを、新入生の皆様・ご家族保証人の皆様にお約束いたします。どうか引き続き、本学の教育にご理解とお力添えを賜りますよう、お願いを申し上げます。
最後に心よりご入学おめでとうございますと申し上げて、式辞とさせていただきます。